



# 平成28年度 企業局交通部運営方針



青森市営バス創業 90 周年



平成28年4月  
青森市企業局交通部

## はじめに

青森市営バスは、大正15年の創業以来、本年3月6日で90周年を迎えました。

これは、東京都に次いで全国で2番目に長い歴史を持つ公営バスということであり、これまで、市民に最も身近な公共交通機関として、安全で安心して利用できる“市民の皆様への足”としての役割を果たしてきました。

また、通勤・通学・買物・通院など市民生活に欠かせない公共交通機関であり、高齢化の進展により、その社会的重要性が増していくものと見込まれています。

しかし、その一方で、マイカーの普及や人口減少などを要因とした利用者の減少が続いており、経営環境がより一層厳しさを増していくことが懸念される中、将来にわたってその役割を果たしていくためには、持続可能な経営基盤を確立していく必要があります。

そのため、交通部では、職員一人一人がお客様の視点に立ち、安全・安心・快適な輸送サービスの提供に努めるとともに、経営環境の変化に的確に対応するための経費の見直しや、新たな増客増収対策などの経営改善に積極的に取り組んでいきます。

青森市公営企業管理者

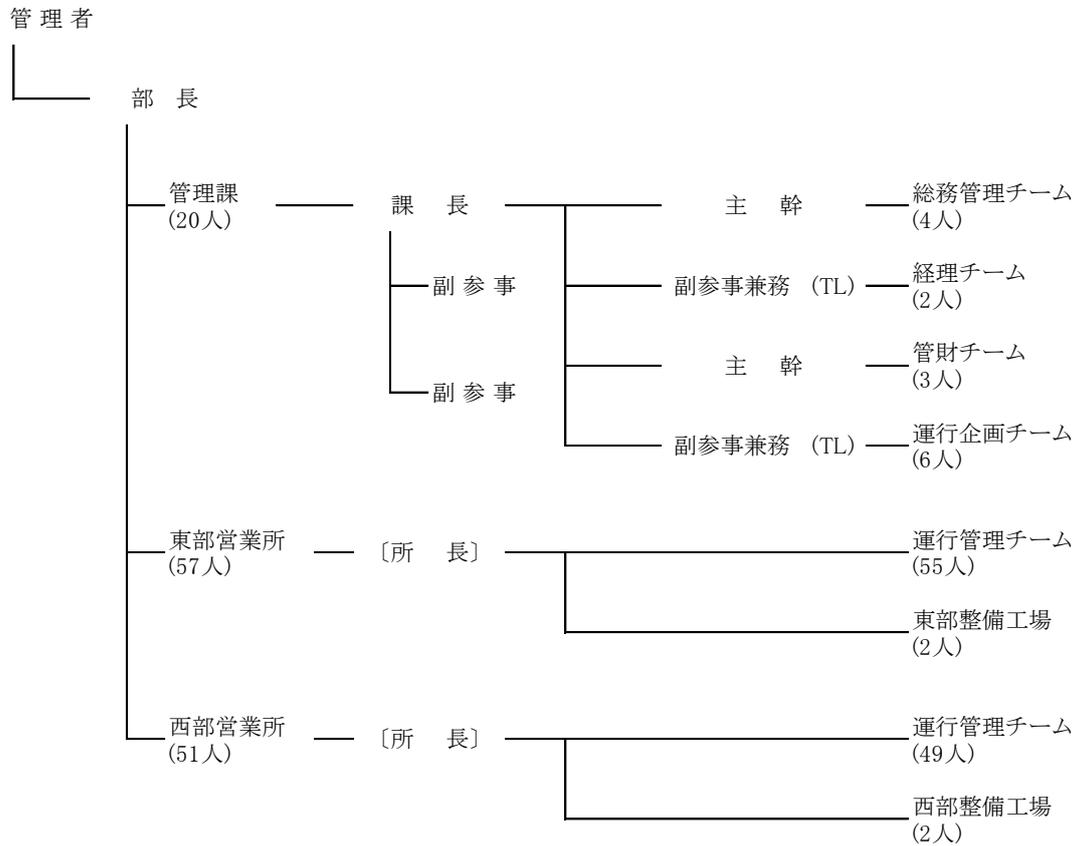
相馬 政美

# 目 次

<b>I 運営体制</b>	.....	3 p
1 業務組織図（平成28年4月1日現在）		
2 職員人員表（平成28年4月1日現在）		
<b>II 基本方針</b>	.....	4 p
1 安全・安心・快適な輸送サービスの提供		
2 経営健全化の推進		
3 市行政施策等との連携		
<b>III 自動車運送事業の概要</b>		
1 業務の予定量	.....	4 p
2 平成28年度当初予算のポイント	.....	5 p
<b>IV 平成28年度主要施策</b>		
1 安全・安心・快適な輸送サービスの提供	.....	8 p
2 経営健全化の推進	.....	11 p
3 市行政施策等との連携	.....	17 p
4 青森市営バス創業90周年記念事業の実施	.....	19 p
<b>(参考資料)</b>	.....	20 p
資料1	..... 平成28年度青森市自動車運送事業会計当初予算総括表	
資料2	..... 一般会計からの補助金等の推移（5年間）	
資料3	..... 営業成績の推移（5年間）	

# I 運営体制

## 1 業務組織図 (平成28年4月1日現在)



※再任用・嘱託員・臨時職員は除く。

## 2 職員人員表 (平成28年4月1日現在)

	正職員	再任用職員	嘱託員	臨時職員	合計
管理者	1	0	0	0	1
部長	1	0	0	0	1
管理課	20	0	13	4	37
東部営業所	57 (45)	17 (16)	26 (26)	1	101 (87)
西部営業所	51 (38)	11 (9)	26 (25)	0	88 (72)
合計	130 (83)	28 (25)	65 (51)	5	228 (159)

※ ( ) 内は運転士の数

## Ⅱ 基本方針

### 1 安全・安心・快適な輸送サービスの提供

「輸送の安全確保が、最大の使命」をスローガンとし、安全運転を更に徹底するとともに、接客研修の充実などにより、安全・安心・快適な輸送サービスを提供します。

### 2 経営健全化の推進

増客増収対策の取組やコスト削減により、経営力の強化に努めます。

### 3 市行政施策等との連携

市が進めている「地域公共交通網形成計画」の策定に向け連携を図り、公共交通機関としての役割を果たしながら、持続可能な運行体系の構築を目指します。

## Ⅲ 自動車運送事業の概要

### 1 業務の予定量

	平成 28 年度当初予算	参考：平成 27 年度当初予算
営業路線数	3 5 路線	3 5 路線
運行系統数	1 6 3 系統	1 6 3 系統
ダイヤ数	1 4 1 ダイヤ	1 4 1 ダイヤ
バス停留所数	7 4 1 基	7 4 1 基
在籍車両数	1 4 1 両	1 3 9 両
年間走行キロ（見込み）	3,896,867 k m	3,912,016 k m
年間輸送人員（見込み） （1日平均輸送人員）	7,445,938 人 （1日平均 20,400 人）	7,528,655 人 （1日平均 20,570 人）

平成 28 年度は、平成 27 年 10 月のダイヤ改正を基にした路線、系統、ダイヤ数による必要車両数や走行キロ数などを見込んでいますが、路線の見直しが無かったため、事業規模は平成 27 年度と同程度となっています。

## 2 平成 28 年度当初予算のポイント

【予算（税込み）】 単位：百万円

事業収益	2, 5 7 3
営業収益	2, 1 2 1
(生活路線維持負担金)	( 3 9 4)
営業外収益	3 6 9
特別利益	8 3
事業費用	2, 5 1 4
営業費用	2, 4 6 7
営業外費用	4 8
特別損失	0
経常損益	△ 2 4
純損益	5 9
累積欠損金	2, 2 2 9

資本的収入	5 2 8
資本的支出	5 3 5
資本的収支差	△ 7

資金不足額	8 3
(資金不足比率：%)	3. 8

\*百万円未満を四捨五入していますので、合計が一致しない場合があります。

経常損益 = 経常収益(営業収益+営業外収益) - 経常費用(営業費用+営業外費用)

### 【予算の規模】

平成 28 年度の当初予算における収益的支出の事業費用は、2 5 億千 4 百万円（対前年度 4 千 5 百万円減）、資本的支出は、5 億 3 千 5 百万円（対前年度 6 千 6 百万円減）の合計 3 0 億 4 千 9 百万円（対前年度 1 億千百万円減）となっています。

(※P21「【資料 1】平成 28 年度 青森市自動車運送事業会計 当初予算総括表(税込み)」参照)

### 【主な内訳(前年度比較)】

#### ○収益

- ・運送収益 21.0 億円(△0.5 億円)
- ・他会計補助金 2.3 億円(△0.5 億円)
- ・長期前受金戻入 2.1 億円(△0.2 億円)

#### ○費用

- ・職員給与費 15.2 億円(0.1 億円)
- ・経費 6.7 億円(0.9 億円)
- ・減価償却費 2.7 億円(0.3 億円)

### 【主な事業予算】

#### ○大型ノンステップバスの購入

- ・・・10 両、3.0 億円
- (中型車両から大型車両へ切替え)

### [収益的収支の状況]

事業収益は、25億7千3百万円で、前年度に比べ1億2千百万円減少しています。

営業収益は、人口減少、福祉負担金の減少などの影響による減収分を見込んだため、21億2千百万円となり、前年度に比べ4千6百万円減少しています。

営業外収益は、退職者数の減に伴う他会計補助金の減額などにより、3億6千9百万円となり、前年度に比べ6千5百万円減少しています。

また、特別利益は、過年度分に係る長期前受金戻入の減少により、前年度に比べ1千万円減少しています。

一方、事業費用は、25億4千4百万円で、前年度に比べ、4千5百万円減少しています。

このうち、営業費用は、車両購入に伴う減価償却費が増加しましたが、軽油単価の下落に伴う動力費の減少などにより、24億6千7百万円となり、前年度に比べ4千5百万円減少しています。

その結果、経常損益は2千4百万円の赤字となりましたが、特別利益を加えた純損益は、5千9百万円の黒字となりました。

### [累積欠損金と資金不足比率]

平成28年度の累積欠損金は、22億2千9百万円となり、前年度に比べ4千2百万円減少しています。

資金不足額は、8千3百万円となり、前年度に比べ9千7百万円減少しました。

その結果、公営企業の健全度を示す資金不足比率は、前年度に比べ4.4ポイント改善し、3.8%になりました。

### [資本的収支の状況]

収入は、5億2千8百万円で、前年度に比べ6千7百万円減少しており、支出は、5億3千5百万円で、前年度に比べ6千6百万円減少しています。

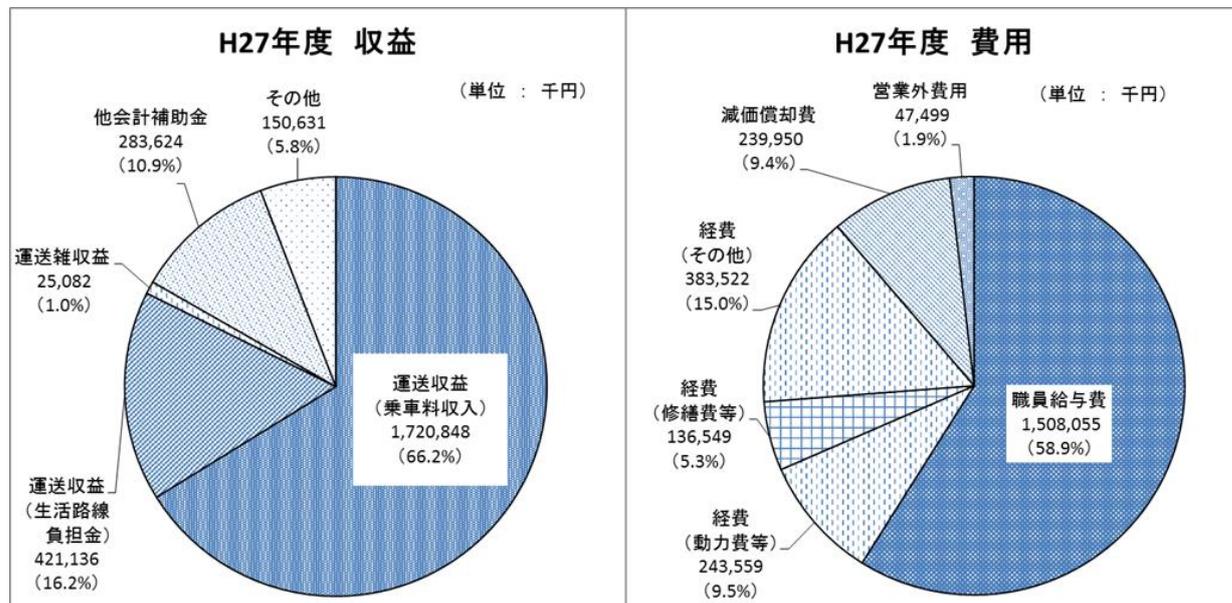
収支とも減少しましたが、その主な要因は、支出の減少に連動した財源の減少によるものです。

支出減の理由は、ノンステップバス購入費用の建設改良費が、平成27年度の中型15両から平成28年度は大型10両を予定していることから、車両価格は上昇するものの総額では減少したことに加え、企業債償還金が平成22年度のバス購入に係る元金償還の終了により減少したことによるものです。

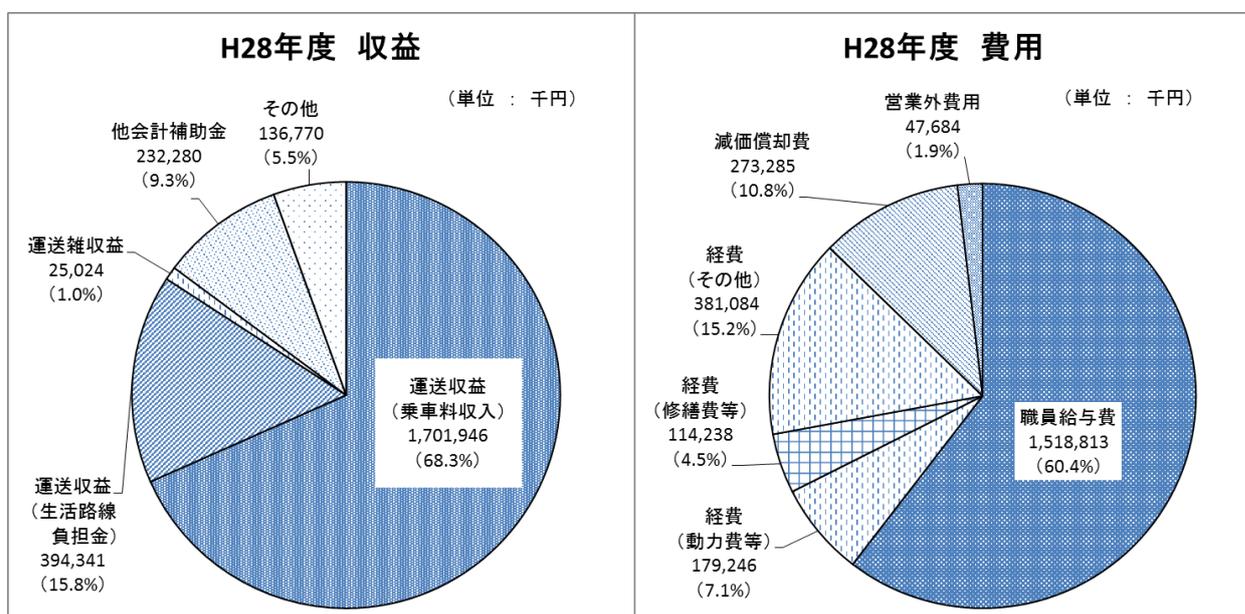
#### ※「長期前受金」とは・・・

償却資産の取得または改良に伴い交付される補助金等を「長期前受金」として負債に計上したうえで、減価償却費見合い分を毎年度の収益に計上するものです。(平成26年度の会計基準改正で義務化)

【経常収支の内訳及び割合（平成27年度当初予算）】



【経常収支の内訳及び割合（平成28年度当初予算）】



## IV 平成 28 年度主要施策

### 1 安全・安心・快適な輸送サービスの提供

#### 1-1 安全性の強化

##### (1) 運輸安全マネジメントの推進

平成 18 年 10 月、輸送の安全確保に向け、基本方針、重点施策、計画等を定めた「安全管理規程」を制定し、その運用を通じて安全運行に努めています。

平成 28 年度も、この安全マネジメントの実効性を確保するため、ヒヤリ・ハット情報の収集・活用、乗務員に対する研修等を実施しながら、重大事故の防止や車内事故等の削減に努めます。

また、安全対策の強化や安全運転の推進、トラブル発生時の迅速な解決など、安全管理上有効なドライブレコーダーの活用方法と導入について検討を進めます。

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
運輸安全マネジメントの推進	安全運転講習会等の継続実施		
		ドライブレコーダーの試験運用	ドライブレコーダーの活用方法・導入検討

[これまでの推移]※H28.3.31 現在

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
重大事故	0 件	0 件	0 件
有責事故	16 件	22 件	22 件
うち車内事故	2 件	5 件	6 件

参考①：重大事故とは、自動車事故報告規則第 2 条に規定されている「転覆」「転落」等の事故に該当するものです。

参考②：車内事故とは、車内で発生した転倒やドア操作ミスによる負傷事故等です。

参考③：平成 26 年度以降は、一部路線の運行管理を受託している弘南バス(株)の事故件数を含みます。

## (2) 市営バスモニター制度の継続実施

日常バスを利用しているお客様から、運転操作、接客状況等をチェックしていただく「市営バスモニター制度」を引き続き実施し、運転技術の向上と接客サービスの向上に努めます。

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
市営バスモニターの実施	年 1 回、11～1 月実施 25 名程度 (H25～継続)		

### 1-2 利便性の向上

#### (1) 需要に応じた路線・ダイヤの設定・見直し

平成 29 年 4 月予定のダイヤ改正にあたっては、市民要望に応え、路線や始発・終発時間の見直し、鉄道との乗継ぎの利便性等を考慮しながら、効率的なダイヤ編成に努めます。

#### (2) 臨時的な需要への対応

ねぶた祭、お盆などの行事に伴う臨時便を運行するほか、イベント主催者等からの要請に可能な限り応えていきます。

#### (3) 利用者に配慮した時刻表の改善

バス停留所に掲示している通過時刻表について、バス停留所毎の便数等にあわせ文字を大きくするなど、見やすい表示に努めます。

#### (4) ホームページの充実

「見やすく、わかりやすく、親しみやすい」ホームページを目指し内容の充実を図ります。

#### (5) 降雪期のバス停留所の除雪対応

降雪期における寄せ雪などによるバス停留所の安全を確保するため、バス停留所の除雪について関係機関へ要請するとともに、交通部職員による除雪を引き続き実施します。

### 1-3 サービス・マナーの向上

#### (1) 接客研修の充実

職員の接客能力の向上のため、平成 25 年度から実施している外部講師による研修を引き続き実施します。

また、平成 27 年度に引き続き、車内アナウンス向上を図るための研修の充実を図ります。

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
接客研修の充実	外部講師による研修 (H25～継続実施)		
		車内アナウンス研修の充実 (H27～継続実施)	

#### (2) お客様にやさしいバスの導入

平成 28 年度は、子どもから高齢者まで様々な方がスムーズに乗り降りできるよう、お客様にやさしい大型ノンステップバス 10 両の導入を予定しています。

##### [新車バスの導入状況]

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
お客様にやさしいバスの導入	新車バスの導入 (継続実施)		
	ワンステップ (中型 15 両)	ノンステップ (中型 15 両)	ノンステップ (大型 10 両予定)

##### [ノンステップ・ワンステップバスの導入実績]

区 分	平成 26 年度 決算	平成 27 年度 決算見込み	平成 28 年度 決算見込み
バス車両数 (台)	1 3 2	1 3 9	1 4 1
ノンステップバス	2	1 7	2 7
ワンステップバス	5 1	5 1	5 1
導入割合 (%)	4 0 . 2	4 8 . 9	5 5 . 3

## 2 経営健全化の推進

### 2-1 増客増収対策

#### (1) 通勤定期券の販売促進（「エコ100定期」の導入）

平成27年度に引き続き、通勤定期券所持者と同伴者が土・日・祝日等に市営バス料金を100円で利用できる通勤定期券所持者特別割引制度「エコ100定期」を実施し、土・日・祝日の利用と通勤定期券の販売を促進します。

#### (2) 通学定期券等の販売推進

鉄道沿線に立地していない高校の入学説明会において、通学定期券や通学バスカードのPRを兼ねて臨時発売所を開設します。

#### (3) 中学校等におけるフリールートカードの活用促進

中学校などの校外学習用として、お得なフリールートカード（700円/日）の活用を促進するため、市中学校長会研修会でのPRに取り組みます。

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
【増客増収対策】 乗車券の販売促進		エコ100定期 (H27～継続)	
	高校入学説明会臨時発売所設置 (H25～継続)		
	校外学習用フリールートカードPR (H26～継続)		

#### (4) 広告料収入の確保

引き続きバス広告のスポンサー獲得に努めるとともに、平成 27 年度から実施した「企業向け広告付きバスカード」やバス中ドアの「戸袋シートを活用した広告」なども積極的に PR しながら、広告料収入の確保に取り組みます。

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
広告料収入の確保に向けた取組	広告取扱い業者への PR 等 (継続実施)		
		企業向け広告バスカード (継続実施)	
		戸袋シート広告 (継続実施)	

#### (5) 市営バスのイメージアップ

市営バスへの理解と親しみを深めていただくため、バス車内への市内小学校の版画の展示や、福祉団体等と連携した車いす乗車体験会を開催します。

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
市営バスのイメージアップに向けた取組	版画ミニギャラリーバス運行 (H26~継続実施)		
	車いす乗車体験会 (H26~継続実施)		

## 2-2 経営の効率化

### (1) 人件費の抑制

引き続き正職員運転士の退職者不補充を継続しますが、現行のダイヤを維持するためには、最低限の運転士数の確保が必要であることから、不足分は嘱託運転士により補充し、人件費の抑制に努めます。

[職員数の推移（当初）] ※管理者除く

区 分	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度 計画
<b>運転士</b>	<b>202</b>	<b>200</b>	<b>188</b>	<b>173</b>	<b>169</b>	<b>167</b>
正職員	132	118	108	100	94	86
再任用職員	21	23	29	24	26	29
嘱託員	49	59	51	49	49	52
<b>整備士</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>4</b>	<b>4</b>	<b>4</b>
<b>事務職員</b>	<b>54</b>	<b>54</b>	<b>63</b>	<b>64</b>	<b>64</b>	<b>62</b>
正職員	45	45	44	42	42	39
再任用職員	2	2	2	3	3	4
嘱託員	0	0	10	12	13	13
臨時職員	7	7	7	7	6	6
<b>職員総計</b>	<b>258</b>	<b>256</b>	<b>253</b>	<b>241</b>	<b>237</b>	<b>233</b>

〔参考指標：人件費比率（％）（職員給与費 / 営業収益 \* 100）〕

営業収益（売上）と職員給与費（人件費、退職給与含む）の対比で、割合が低いほど生産性が高いことを示します。

平成 28 年度は、退職者数などにより年度間で差異が生じる退職給付引当金が増加したことから、悪化しています。

（各年度とも税込み額で算出）

指 標 名	平成 26 年度 決算	平成 27 年度 当初予算	平成 28 年度 当初予算
人件費比率（％）	74.4	69.6	71.6

## (2) 経費の削減

平成 28 年度予算では、市の交通戦略の見直しにより、バス路線再編に伴う経費の圧縮が見込めない中であっても、乗務員については、嘱託職員を新たに採用するものの、引き続き退職者不補充を継続することにより、全体では2人減少となり、ダイヤを維持するために必要な人員については、アウトソーシングの拡大を図るなど、経費の削減に努めた結果、経常費用を前年度当初予算比で 98.3%に抑制しました。

引き続き計画的かつ効率的な予算執行を行い、一層の経費削減に努めます。

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
運転管理に関する民間 委託の実施 (運行管理の受委託)	委託ダイヤ数 4月～9月：10 10月～3月：5	委託ダイヤ数 4月～9月：15 10月～3月：15	委託ダイヤ数 4月～9月：15 10月～3月：15

〔参考指標：経常収支比率 (%) ( 経常収益 / 経常費用\*100 ) 〕

経常的活動の能率性を示すもので、100%を超えると黒字になります。

経費削減に継続して取り組んでいるものの、乗車料収入等の減少により、前年度当初予算より低下しています。

(各年度とも税込み額で算出)

指 標 名	平成 26 年度 決算	平成 27 年度 当初予算	平成 28 年度 当初予算
経常収支比率 (%)	97.9	101.6	99.0

### (3) 車両の効率的な運用

計画的な車両の修繕や車両の納入時期に合わせた廃車、各営業所における適正な配車など、車両の効率的な運用に努め、実働率の向上を図ります。

[バス車両数の推移と実働率の推移]

区 分		平成 26 年度 決算	平成 27 年度 決算見込み
稼働車両数 (延べ台数) A		39,011	37,064
実在車両数 (延べ台数) B		51,949	48,918
実働率 (%) A/B		75.1	75.8
参 考	路線数	35	35
	ダイヤ数	141	141
	車両数	132	139

### (4) 更なる経営改善に向けた取組

市では、まちづくりと一体となった持続可能な地域公共交通網を形成するため「青森市地域公共交通網形成計画」を策定することとしています。

交通部ではこの計画に合わせ、社会経済情勢の変化等を踏まえた、交通部の経営戦略の策定を進めます。

## 2-3 組織の活性化

### (1) 業務への意欲と良好なコミュニケーションの確保

市営バスモニター制度などでお客様から良い評価を受けた職員を表彰するなど、職員一人一人の業務意欲を高めていくとともに、乗務員と管理部門職員とのコミュニケーションの場をつくり、日頃から情報交換がしやすい職場環境づくりに取り組みます。

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
優秀な職員の表彰	無事故・無違反表彰（継続実施）		
	優良運転者表彰（継続実施）		
	スマイルドライバー表彰（継続実施）		

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
乗務員との意見交換の場の設定	経営層との対話集会など（継続実施）		

### 3 市行政施策等との連携

#### (1) 市交通施策との連携

市では、これまで、「青森市総合都市交通戦略」の重点戦略である「バス交通に関する戦略」に基づき、バス交通ネットワークの再編に取り組んでまいりました。

平成24年10月からは、孫内、岡町、矢田・滝沢地区、平成25年10月からは、浪岡（空港経由）、高田、荒川、入内・大柳辺、青柳地区、平成26年10月からは、浪岡地区（大釈迦経由）において公共交通社会実験がスタートし、順次、市民バスによる本格運行に移行していますが、そのほとんどが市街地までの直通便となり、戦略との乖離が生じています。

このため、市では、一旦立ち止まったうえで、実効性のある路線再編の手法を含め、まちづくりと一体となった公共交通網の再構築に向けた「青森市地域公共交通網形成計画」を平成28年度中に策定することとしています。

交通部においても、市の計画と連携しながら、バス交通ネットワークの再編と経営改善に取り組んでいきます。

#### 【参考：これまでの路線再編進捗状況】

再編対象路線	業務内容					
	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度～
孫内線、岡町線、矢田線、 滝沢線、矢田・滝沢線	再編 調査	社会 実験	本格 運行			
浪岡線（空港経由）、 高田線、青い森病院線、 入内線、大柳辺線、青柳線		再編 調査	社会 実験	本格 運行		
浪岡線（大釈迦経由）			再編 調査	社会 実験	本格 運行	

## (2) 市環境施策との連携

市では、(株)西田組、(株)マエダとの間で三者協定を締結し、家庭から排出される廃食用油をバイオディーゼル燃料(BDF)としてリサイクルする取組を推進しています。

交通部としても、企業としての環境への貢献、さらには市が推進するリサイクル活動への貢献といった観点から、平成26年度から実施しているBDFを活用した市営バスの運行を平成28年度も引き続き実施します。

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
バイオディーゼル燃料(BDF)の市営バスへの活用	1両 4,765ℓ	2両 約12,000ℓ	

(参考) 使用期間 … 4月から10月まで

## (3) 交通安全推進に向けた関係機関との連携

例年、交通部では、全国交通安全運動や交通安全県民運動、バス無事故運動などと連携した重点目標に基づき、のぼり、ポスターの営業所及びバス車内等への掲示、交通指導隊員による歩行者や車両を対象とした安全誘導など、交通安全の推進に取り組んでいます。

また、平成27年度に引き続き平成28年度においても、青森県警が高齢者等の交通事故の削減を目的に実施している運転免許自主返納事業に賛同し、運転免許自主返納者に対し5,000円相当のバスカードを提供することで、マイカーから市営バスへの転換の促進と高齢者等による交通事故の防止に取り組めます。

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
交通事故防止のための取組	<b>【継続実施】交通安全運動との連携</b> ○交通安全スローガンの設定 ○交通安全運動のぼりの設置 ○交通安全運動ポスターの掲示 ○交通指導隊員による安全誘導		
		運転免許自主返納者支援事業 (継続実施)	

- (4) 中学校等におけるフリールートカードの活用促進（「2-1 増客増収対策」再掲）  
中学校などの校外学習用として、お得なフリールートカード（700 円／日）の活用を促進するため、市中学校長会研修会での PR を実施します。

#### 4 青森市営バス創業 90 周年記念事業の実施

青森市営バスが平成 28 年 3 月 6 日で 90 周年を迎えたことから、今後においても、身近で親しみのある公共交通機関としての役割を果たし、より多くの皆様に利用していただけるよう、青森市営バスの魅力を PR し、利用促進を図るための各 PR 事業を 1 年を通して展開します。

##### 【主な事業内容（スケジュール案）】

- (4 月) 90 周年のフロントマスク掲示
- (5 月) 懐かしのパネル展
- (6 月) デザインバス運行
- (7 月) 夏休みミニギャラリーバス拡大
- (8 月) 青森ねぶた祭での PR
- (9 月) バスマつりでの PR

※その他、記念バスカードの発売、各 PR グッズ（缶バッジ、ロゴシール）及び「90 年のあゆみ」製作等を実施します。



青森市営バス創業 90 周年記念ロゴ

# 參考資料

【資料1】

平成28年度 青森市自動車運送事業会計 当初予算総括表(税込み)

(単位:千円、%)

科 目		収 益			費 用			増減率
		H27当初予算	H28当初予算	増減額	H27当初予算	H28当初予算	増減額	
運送収益	乗合	2,141,984	2,096,287	△ 45,697	590,382	553,879	△ 36,503	△ 6.2
	計	2,141,984	2,096,287	△ 45,697	62,016	126,516	64,500	104.0
営業収益	広告料	24,695	24,695	0	855,657	838,418	△ 17,239	△ 2.0
	雑収益	387	329	△ 58	1,508,055	1,518,813	10,758	0.7
営業収益	計	25,082	25,024	△ 58	243,559	179,246	△ 64,313	△ 26.4
	小計	2,167,066	2,121,311	△ 45,755	136,549	114,238	△ 22,311	△ 16.3
営業外収益	他会計補助金	283,624	232,280	△ 51,344	383,522	381,084	△ 2,438	△ 0.6
	補助金の他	2,600	2,600	0	763,630	674,568	△ 89,062	△ 11.7
営業外収益	小計	286,224	234,880	△ 51,344	239,950	273,285	33,335	13.9
	小計	434,255	369,050	△ 65,205	2,511,635	2,466,666	△ 44,969	△ 1.8
経常収益	常収	2,601,321	2,490,361	△ 110,960	47,499	47,684	185	0.4
	支	42,187	△ 23,989	△ 66,176	2,559,134	2,514,350	△ 44,784	△ 1.7
特別利益	固定資産売却益	0	0	0	0	0	0	-
	その他の	93,075	82,953	△ 10,122	0	0	0	-
特別利益	小計	93,075	82,953	△ 10,122	0	0	0	-
	小計	2,694,396	2,573,314	△ 121,082	0	0	0	-
純損	損	135,262	58,964	△ 76,298	2,559,134	2,514,350	△ 44,784	△ 1.7
	欠損	2,271,655	2,229,340	△ 42,315	0	0	0	-
累積欠損	債	334,500	290,500	△ 44,000	340,857	298,716	△ 42,141	△ 12.4
	金	0	0	0	259,877	235,895	△ 23,982	△ 9.2
資本的収入	他会計補助金	259,877	235,895	△ 23,982	611	500	△ 111	△ 18.2
	固定資産売却代金	0	1,411	1,411	0	0	0	-
資本的収入	投資	792	383	△ 409	0	0	0	-
	負担金	0	0	0	0	0	0	-
資金不足	計	595,169	528,189	△ 66,980	601,345	535,111	△ 66,234	△ 11.0
	資金不足比率(%)	179,866	82,730	△ 97,136	601,345	535,111	△ 66,234	△ 11.0
				3.8	※千円未満四捨五入			

【資料 2】

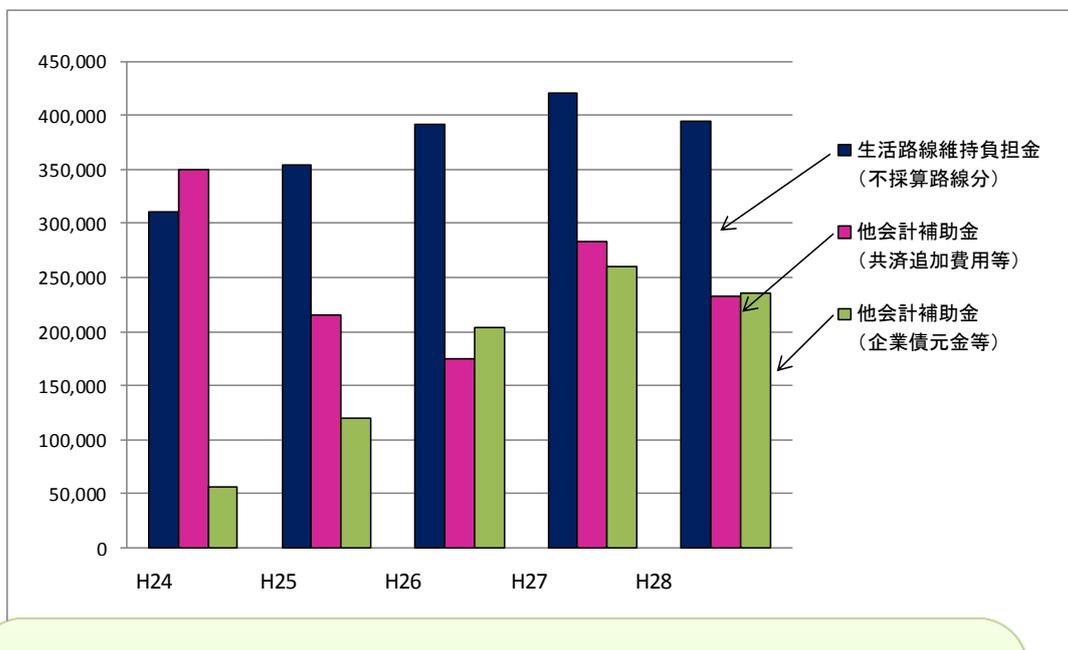
一般会計からの補助金等の推移（5年間）

事業収入をもって充てることが適当でない又は困難な経費については、地方公営企業法により、一般会計が負担することとしており、交通事業においては、不採算路線の維持に係る経費や企業債の償還分などを繰入れしています。

【一般会計繰入金の内訳】

（単位：千円）

繰入区分		平成24年度 (決算)	平成25年度 (決算)	平成26年度 (決算)	平成27年度 (当初予算)	平成28年度 (当初予算)
収 入 的	生活路線維持負担金 (不採算路線分)	310,047	354,428	391,913	421,136	394,341
	他会計補助金 (共済追加費用等)	350,034	215,619	174,388	283,624	232,280
収 資 本 的	他会計補助金 (企業債元金等)	56,872	119,588	203,199	259,877	235,895
合 計		716,953	689,635	769,500	964,637	862,516



他会計補助金(3条予算:共済追加費用等)は、退職手当に係る補助金が含まれており、H28年度は前年度に比べ退職者が2名減少したことから、約5千百万円減少しています。  
生活路線維持負担金は、不採算路線の維持や経営の安定化などに対する市の補助金で、各年度の運行ダイヤや路線別の収支状況、物価変動などの影響を受けるものです。  
H28年度は、市の交通戦略の見直しに伴い、バス路線の再編を行わないものの、経費の削減に努めることにより、約2千7百万円減少しています。  
他会計補助金(4条予算:企業債元金等)は、H22年度から計画的に更新しているバス車両等の元金償還(5年償還)に対する補助金ですが、H28年度は、H22年度借入分の償還がH27年度で終了したため、約2千4百万円減少しています。

【資料3】

営業成績の推移(5年間)

H24～H26は決算額(税抜)、H27～H28は予算額(税込)

区分	年度	H24	H25	H26	H27 (当初予算)	H28 (当初予算)	備考
営業	キロ ( km )	271.4	235.6	216.0	216.0	216.0	
運転	車両数 ( 両 )	158	146	132	139	141	
運転	走行キロ ( km )	4,147,065	3,859,474	3,513,622	3,387,561	3,386,234	※実車 <sup>※</sup>
総運	転走行キロ ( km )	4,834,149	4,499,516	4,084,709	3,912,016	3,896,867	※実車 <sup>※</sup> + 回送 <sup>※</sup>
乗車	人員 ( 人 )	8,448,859	8,184,444	7,546,952	7,528,655	7,445,938	
乗車	料収入 ( 千円 )	1,788,577	1,751,109	1,659,509	1,720,848	1,701,946	
在籍	職員数 ( 人 )	189	183	172	170	163	※職員数には管理者を含み、嘱託職員・臨時職員は含まない
一日平均	運転	走行キロ ( km )	11,362	10,574	9,626	9,256	9,277
	総運	転走行キロ ( km )	13,244	12,327	11,191	10,689	10,676
	乗車	人員 ( 人 )	23,148	22,423	20,677	20,570	20,400
	乗車	料収入 ( 千円 )	4,900	4,798	4,547	4,702	4,663
収益的	収入	( 千円 )	2,491,480	2,384,079	2,481,019	2,694,396	2,573,314
	支出	( 千円 )	2,728,640	2,567,734	3,595,578	2,559,134	2,514,350
	損益	( 千円 )	△ 237,160	△ 183,655	△ 1,114,559	135,262	58,964
	累積	欠損金 ( 千円 )	1,272,732	1,615,257	2,393,574	2,271,655	2,229,340
	資金	不足比率 ( % )	15.9	13.0	12.3	8.2	3.8